

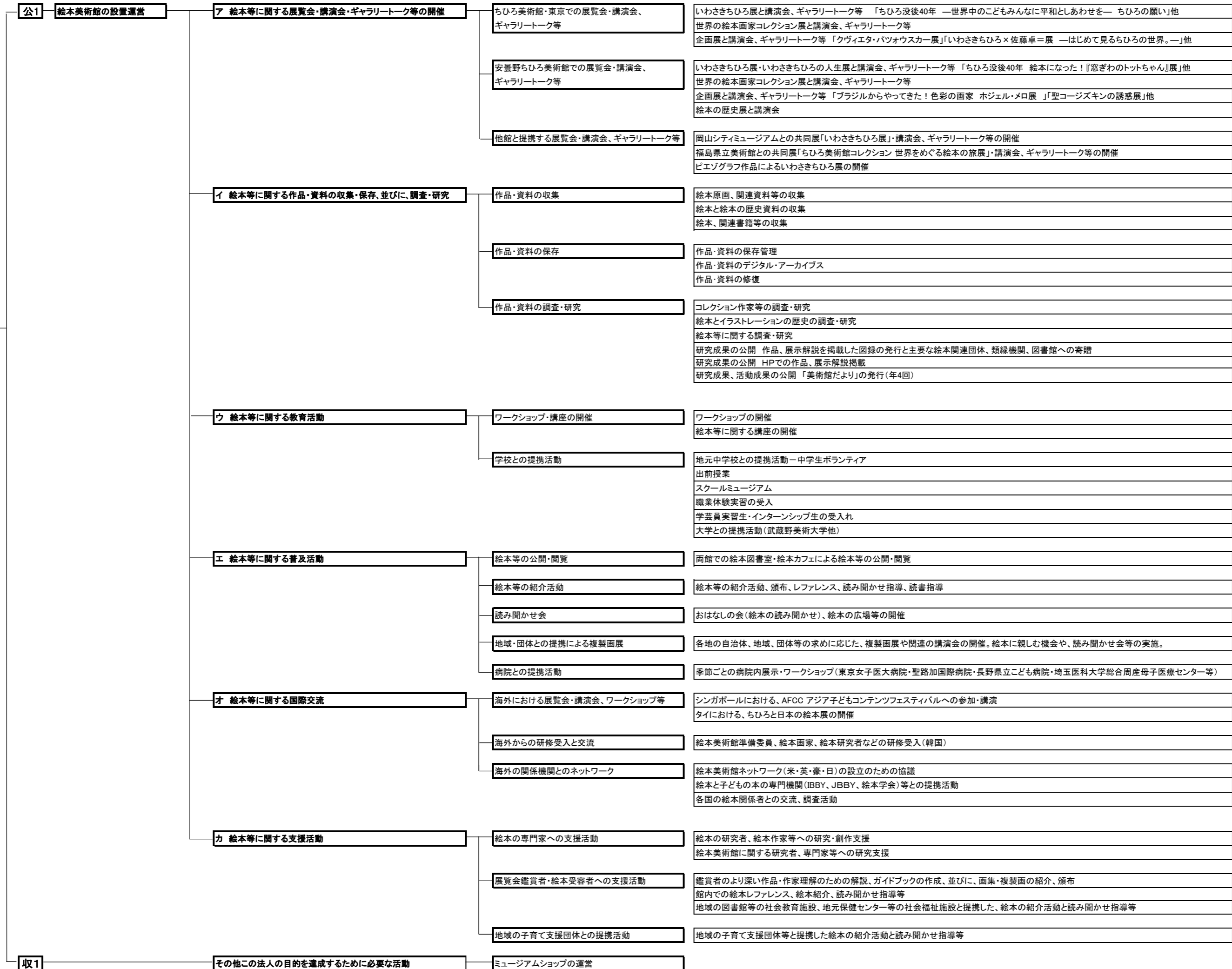
2014（平成 26）年度 事業報告書

2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

I	2014 年度事業報告 事業の体系図	・ ・ ・ ・ ・	1
II	2014 年度事業報告一覧	・ ・ ・ ・ ・	2

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

本部



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 2014(平成26)年度事業報告書 活動一覧

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所
ア 絵本等に関する展覧会・講演会・ギャラリートーク等の開催					
■ちひろ美術館・東京での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【ちひろ展】	ちひろ没後40年 —世界中のこどもみんなに平和と あわせを— ちひろの願い	「世界中のこどもみんなに平和とあわせを」。このことばには、自身の戦争体験に引き寄せ、ベトナム戦争に心を痛めたちひろの切実な願いが凝縮されている。『戦火のなかの子どもたち』など反戦の願いを込めて描いた絵本とともに、子どもたちの命のかがやきを描いた作品を展示した。(出展作品数135点、書籍資料82点)	12,605名	3月1日～5月18日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ没後40年 ちひろになれる! 7つの法則 —技法 徹底解剖—	なにげなく描かれているように見えるちひろの作品が持つ、さまざまな絵画表現の技術を、「水の使い方」や「かわいさのひみつ」「色の工夫」「線のテクニック」「引き算の絵本づくり」など、7つの視点から紹介した。(出展作品数91点、資料36点)	9,548名	5月21日～8月3日	ちひろ美術館・東京
【世界の絵本画家コレクション展】	ちひろ美術館コレクション びっくり! 絵本水族館	展示室を水族館に見立て、魚や貝、エビ、タコ、クジラ、ワニ……、さらには、人魚や河童など空想上の生き物にいたるまで、世界各国の絵本画家たちが描いた水の生き物の作品を展示し、絵本から広がる豊かなイマジネーションの可能性を紹介した。(出展作品数50点)	9,548名	5月21日～8月3日	ちひろ美術館・東京
【企画展】	—Paper Talks 紙のおしゃべり— クヴィエタ・パツオウスカー展	85歳となった今もなお意欲的に創作を続けるチェコの女性アーティスト、クヴィエタ・パツオウスカー。本展では『すずの兵隊』(1985年)から、近作の『日々の色』(2010年)までの9冊の絵本の原画や、紙の彫刻を展示し、鮮やかな色彩感覚と自由な造形感覚にあふれた世界を紹介した。(出展作品数97点、資料18点)	12,605名	3月1日～5月18日	ちひろ美術館・東京
	いわさきちひろ×佐藤卓=展 —はじめてみる、ちひろ の世界。—	現代を代表するグラフィックデザイナー・佐藤卓がプロデュースした、いわさきちひろと佐藤卓のコラボレーション展を開催した。佐藤卓のこれまでのデザインを紹介する「佐藤卓のデザイン採集」とともに、佐藤が選んだちひろの絵を展示する「ちひろの描く線画」と「ちひろの描く子どもたち」、ちひろの絵と佐藤とのコラボレーションの空間「ちひろと佐藤卓の実験室」の4つの展示室を構成し、「はじめてみる、ちひろの世界」を創出した。(出展作品数 佐藤卓資料18点、ちひろ作品60点 コラボレーション作品42点)	14,604名	8月6日～11月3日	ちひろ美術館・東京
	夢二からちひろへ —子どもの本の先駆者たち—	子どものための教育への関心が高まるなか、新たな子どもの本の文化が花開いた大正から昭和に、絵雑誌「ゴドモノクニ」等で自らの芸術を創造した先駆者たち—竹久夢二、岡本帰一、清水良雄、深沢省三、武井武雄、初山滋、村山知義、茂田井武—の作品と、子ども時代に「ゴドモノクニ」の絵に憧れ、第二次世界大戦後から子どもの本の世界で活躍したちひろの作品を展示し、ひとりの画家を育んだ絵本の歴史を概観した。(前期・後期合わせて 出展作品数 135点、書籍資料 82点)	10,571名	11月6日～2015年1月31日	ちひろ美術館・東京
【講演会】	佐藤卓×面出薫×松本猛鼎談 「ちひろとデザイン」 を語る」	展示開催にあわせ、佐藤卓、面出薫、松本猛が、ちひろの絵と「デザイン」について語り合った。	87名	8月30日	ちひろ美術館・東京
	スライドトーク「夢二からちひろへ」	竹迫祐子がスライドを用いて、大正から昭和にかけて活躍をした童画家たちと、日本の子どもの本の黄金期について解説した。	26名	11月23日	ちひろ美術館・東京
【ギャラリートーク】	松本猛によるギャラリートーク	いわさきちひろの息子である松本猛が、母の思い出や作品にまつわるエピソード、展示の見所を語った。	各回20～30名	3月9日/6月15日/10月19日/ 2015年1月18日	ちひろ美術館・東京
	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の各展示の見どころなどを、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回10～20名	毎月第1、3土曜日	ちひろ美術館・東京
	ファミリーギャラリートーク	展示室で作品を見ながら、子どもと保護者を対象にした対話型のギャラリートークを行った。	各回約5名	4月12日、6月14日、 8月23日、11月22日	ちひろ美術館・東京
■安曇野ちひろ美術館での展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【ちひろ展】	ちひろ没後40年 絵本になった! 『窓ぎわのトットちゃん』展	黒柳徹子が子ども時代をつづった『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)は、1981年に出版されて以来、物語を彩るいわさきちひろの絵とともに、今日、世界中の子どもたちに愛されている。本展では、初出の雑誌に掲載された作品を含め、それぞれのエピソードに重なり合うちひろの作品を加えて、物語の世界を膨らませ展示を行った。(出展作品数80点、資料25点)	25,392名	3月1日～5月13日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ没後40年 ちひろの愛した アンデルセンと宮沢賢治	いわさきちひろが人としても画家としても深く愛し、傾倒したアンデルセンと宮沢賢治の物語。ちひろが描いたアンデルセンの絵本『おやゆびひめ』や『あかいくつ』、その他単行本の作品と、宮沢賢治の物語を描いた唯一の絵本『花の童話集』を中心に展示し、ちひろの感性を通して映し出された二人の作家の世界を紹介した。(出展作品数82点、資料31点)	31,250名	5月16日～7月22日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ没後40年 ちひろの歩み —平和を願い子どもを 描き続けた画家—	青春時代を第二次世界大戦の戦時下に過ごし、戦後は画家として、またひとりの母親として、平和への願いを絵筆に託して子どもを描き続けたいわさきちひろ。本展では、画家を目指して模索した20代での初期素描や絵本『わたしがちいさかったときに』、生命感あふれる子どもたちの姿を描いた代表作などを展示し、ちひろの人生の歩みとともに、その作品に込められた思いを浮き彫りにした。(出展作品数69点、資料25点)	51,106名	7月25日～9月16日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ没後40年 ちひろの絵本づくり —表現の可能性 を求めて—	生涯にわたって絵本表現の可能性を追求し続けたちひろが、画家として立つきっかけとなった紙芝居「お母さんの話」から、平和への願いを込めて描いたちひろの最後の絵本『戦火のなかの子どもたち』までを、制作過程での習作やスケッチ、ダミーなどととも年代を追って展示し、ちひろの絵本づくりの全貌を紹介した。(出展作品数74点、資料25点)	35,312名	9月19日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろの人生	ちひろゆかりの品々や素描・スケッチをはじめ、影響を受けた画家の作品、人生を紹介するパネルに加えて、新たに、生前のちひろを語る方々の証言映像を視聴できる機器や、各年代のちひろの写真が流れるフォトフレームなどを設置し、より深くちひろの人間像を伝えた。(出展作品数21点、資料185点)	141,819名	通年	安曇野ちひろ美術館
【世界の絵本画家コレクション展】	ちひろ美術館コレクション 絵本・のりもの博覧会	電車、自動車、飛行機、船、そして、空飛ぶじゅうたん……。本展では、絵本に登場するさまざまな“のりもの”に焦点をあて、「陸ののりもの」「空ののりもの」「海ののりもの」の3つをテーマに作品を展示、世界の絵本画家たちが描いた魅力あふれる“のりもの”の数々を紹介した。(出展作品数89点、資料0点)	25,392名	3月1日～5月13日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 世界の画家たちの愛したアンデルセンと宮沢賢治	同じ物語でも、描く画家の解釈や、技法、生まれ育った時代や国によって、多様な作品が生まれ出されている。本展では、「ちひろの愛した アンデルセンと宮沢賢治」展にあわせ、世界の画家たちがアンデルセンと宮沢賢治の童話を描いた作品を展示し、2人の優れた文学者が紡いだ物語と響きあう、画家たちの個性豊かな作品を紹介した。(出展作品数46点、資料27点)	31,250名	5月16日～7月22日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション びっくり! 絵本動物園	ゴリラ、ライオン、狼、亀、鳥から、想像上の生き物である竜や人魚まで……。絵本には、さまざまな動物が登場し、同じ種類の動物でも、色や形、表情は画家によって異なり、個性豊かに描かれている。本展では、ちひろ美術館コレクションの中から、画家たちが異なる感性で捉え、趣向をこらして描いた、約40種類の魅力的な動物たちを紹介した。(出展作品数103点、資料9点)	51,106名	7月25日～9月16日	安曇野ちひろ美術館
	ちひろ美術館コレクション 絵本に耳をかたむけて	わたしたちの生活には様々な音があふれているが、目には見えず、留めておけない“音”を、画家たちは、豊かな表現で作品のなかに響かせている。本展では、ちひろ美術館コレクションの中から、「音楽」「人の声」「季節の音」などをテーマに、鑑賞者のイメージを広げ、耳をすませば絵のなかから音が聞こえてくるような作品を紹介した。(出展作品数25点)	35,312名	9月19日～11月30日	安曇野ちひろ美術館

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所
	絵本の歴史	死者の書や時禱書、絵巻物から20世紀初頭の絵本にいたるまで、絵本とイラストレーションの歴史に関わる作品・資料を、「手描き本の時代」「版本の時代」「子どもの本の時代(印刷本)」の3つの時代に分け、紹介した。	143,060名	通年	安曇野ちひろ美術館
【企画展】	ブラジルからやってきた！色彩の画家 ホジェル・メロ展	2014年3月に国際アンデルセン賞画家賞を受賞したブラジルの絵本画家ホジェル・メロの原画展を、ミュンヘンの国際児童図書館との共同企画として、日本で初めて開催した。自ら文章も書き、これまでに100冊以上の絵本を手がけているメロの、鮮やかな色彩感覚と斬新なデザインで多くの人を魅了する世界を、画家が所蔵する12冊の絵本原画と楽しい立体作品で紹介した。(出展作品数89点、資料23点)	31,250名	5月16日～7月22日	安曇野ちひろ美術館
	聖コージズキンの誘惑展	奇想天外な発想とダイナミックな描写で高い人気を博しているスズキコージの幅広い創作活動の世界を、絵本画家としての活動に焦点をあてながら、現代美術の作品創作と重なる部分を含め紹介した。本展では、デビュー作『ゆきむすめ』(世界文化社)から新作に至るまで、各年代を代表する絵本原画を展示するとともに、即興的に描く“ライブペインティング”から生まれた巨大な作品(約2×5m)、画家としての原点ともいえる若き日のスケッチブックなども紹介した。(出展作品数288点、資料19点)	35,312名	9月19日～11月30日	安曇野ちひろ美術館
【ギャラリートーク】	展示担当者、普及担当者によるギャラリートーク	開催中の展示の見どころなどを、作品を見ながら展示担当者や普及担当者が解説した。	各回5～20名	毎月第2、4土曜日	安曇野ちひろ美術館
■他館と提携する展覧会・講演会、ギャラリートーク等					
【展覧会】	没後40年 いわさきちひろ展	子どものしあわせと平和を願って描き続けた、いわさきちひろの幅広い画業と人生を、代表作と、アトリエの復元、遺品や資料ともに展示、紹介した。(出展作品数130点、資料68点)	27,056名	7月18日～8月24日	岡山シティミュージアム
	ちひろ美術館コレクション展 世界をめぐる絵本の旅	ちひろ美術館コレクションから、世界の絵本画家といわさきちひろの作品を、画家たちからのメッセージとともに展示、紹介した。(出展作品数150点、資料75点)	16,332名	4月26日～6月1日	福島県立美術館
	ピエゾグラフによる いわさきちひろ展	いわさきちひろのピエゾグラフ作品を絵本や写真パネルなどとともに展示した。(出展作品数100点)	6,813名	8月2日～8月31日	高鍋町美術館
	ピエゾグラフによる いわさきちひろ展—子どもの幸せ みんなで楽しむ絵本の世界—	いわさきちひろのピエゾグラフ作品を絵本や写真パネルなどとともに展示した。(出展作品数60点、資料11点)	4,197名	9月27日～10月26日	白鷹町文化交流センター「あゆむ」
【作品貸出】	東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術	赤羽末吉作品2点を出品した。		5月14日～6月8日	府中市美術館
	東京・ソウル・台北・長春—官展にみる近代美術	赤羽末吉作品2点を出品した。		6月14日～7月21日	兵庫県立美術館
	キラキラをえがいたふたり 武井武雄と初山滋	初山滋作品3点を出品した。		6月19日～9月1日	イルフ童画館
	ビネッテ・シュレーダー展 美しく不思議な世界	ビネッテ・シュレーダーの「ルピナスさん」1点を出品した。		7月5日～8月31日	伊丹市立美術館
	ビネッテ・シュレーダー展 美しく不思議な世界	ビネッテ・シュレーダーの「美女と野獣」1点を出品した。		9月12日～10月19日	天童市美術館
	未明童話を描いた7人の作家展	いわさきちひろのピエゾグラフ作品より「赤い蠟燭と人魚」2点を出品した。		11月29日～12月28日	ミュゼ雪小町
	茂田井武展—記憶の頁—	茂田井武の作品5点を出品した。		2015年1月13日～3月27日	ノエビア銀座ギャラリー
【講演会】	松本猛講演会「いわさきちひろと世界の絵本画家たち」	福島県立美術館でのコレクション展に合わせて、松本猛が講演を行った。	135名	4月26日	福島県立美術館
	竹迫祐子講演会「いわさきちひろが願ったこと」	高鍋町美術館でのピエゾグラフ展にあわせて、竹迫祐子が講演を行った。	45名	8月2日	高鍋町美術館多目的ホール
	高畑勲氏記念講演会「いわさきちひろとわたしたち」	岡山シティミュージアムでのいわさきちひろ展にあわせ、高畑勲が講演を行った。	300名	7月20日	岡山県山陽新聞さん太ホール
	松本猛講演会「母、いわさきちひろが絵に託したこと」	山形県白鷹町文化交流センター「あゆむ」でのピエゾグラフ展にあわせて、松本猛が講演を行った。	112名	9月27日	白鷹町文化交流センター「あゆむ」
【ギャラリートーク】 【ワークショップ】	ギャラリートーク	福島県立美術館でのコレクション展に合わせて、上島史子がギャラリートークを行った。	約50人	5月10日	福島県立美術館
	ギャラリートーク	岡山シティミュージアムでのいわさきちひろ展にあわせ、竹迫祐子がギャラリートークを行った。	計約100名	7月18日/8月16日/8月17日	岡山シティミュージアム
	ギャラリートーク	高鍋町美術館でのピエゾグラフ展にあわせて宍倉恵美子がギャラリートークを行った。	約20名	8月2日	高鍋町美術館
	水彩画ワークショップ、ギャラリートーク	山形県白鷹町文化交流センター「あゆむ」でのピエゾグラフ展にあわせて、松方路子がにじみ体験ワークショップとギャラリートークを行った。	60名	10月18日	白鷹町文化交流センター「あゆむ」

イ 絵本等に関する作品・資料の収集・保存、並びに調査・研究

作品・資料の収集	絵本原画、関連資料等の収集	新規収蔵作品 いわさきちひろ 5点(購入1点/寄贈4点) 世界の絵本画家12点(購入5点/寄贈7点)	新収蔵作品 計17点	通年。 コレクション総数26,761点 いわさきちひろ9,446点 世界の絵本画家作品:33の国と 地域203名による17,315点	両館
	絵本と絵本の歴史資料の収集	時代のエポックとなり、未来に継承すべき優れた芸術性を持つ絵本の資料・絵本の歴史資料収集のための調査を行った。購入資料はなし。		通年	両館
	絵本、関連書籍等の収集	優れた芸術性を持ち、魅力的な絵本の収集を進めた。	新規入庫書籍 計1,090点	通年	両館
	作品・資料の保存管理	絵本原画を中心とした収蔵作品の適切な保存管理を行なうとともに、画像データベース等での作品管理を進めた。		通年	両館

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所
作品・資料の保存	作品・資料のデジタル・アーカイブス	いわさきちひろ作品のデジタル・アーカイブスを進めた。	計25点	通年。 アーカイブス総数:438点	両館
	作品・資料の修復	立体作品1点の修復を行なった。	計1点	随時	両館
作品・資料の調査・研究	コレクション作家等の調査・研究	展示等にあわせて、コレクション作品の表現・技法、作家の人生、芸術観、時代背景等について、調査・研究を行い、調査資料のドキュメンテーションを進めた。		通年	両館
	絵本とイラストレーションの歴史の調査・研究	展示等にあわせて、絵本とイラストレーションの歴史に関する調査・研究を進めた。		通年	両館
	絵本等に関する調査・研究	新旧の絵本の表現、テーマ、絵本の造形について調査・研究を進め、魅力的な絵本の要素を研究した。			
	研究成果の公開 作品、展示解説を掲載した図録の発行と主要な絵本関連団体、類縁機関、図書館への寄贈	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、「美術館だより」や図録、HPを通じて公開した。また、それら「美術館だより」、図録等は、絵本関連団体、類縁機関、国際子ども図書館等の主要な図書館へ寄贈した。		通年	両館
	研究成果の公開 HPでの作品、展示解説掲載	調査、研究の成果を展覧会等に活かすとともに、作品解説、展示解説等にまとめ、逐次、HPにアップした。		通年	両館
	研究成果、活動成果の公開 「美術館だより」の発行(年4回)	研究や活動の成果を、展示紹介、活動紹介等にまとめ、年4回発行する「美術館だより」やHPを通じて、公開した。	各館ごとに年4回・ 計8回の発行	通年	両館

ウ 絵本等に関する教育活動

ワークショップ・講座の 開催	ガーデントーク ちひろの庭の花めぐり	「ちひろの庭」を中心に、作品との関連やいわさきちひろが愛した草花などのエピソードを四季折々に紹介した。	計約50名	3月30日/6月8日/10月5日/ 11月23日	ちひろ美術館・東京
	ちひろの水彩技法ワークショップ	いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	計436名	4月19日/7月26～27日/8月24日/ 2015年1月2～3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座1. わらべうたあそび	ファーストミュージアムの取り組みとして、0・1・2歳の乳幼児とその保護者を対象にした、わらべうたあそびの会を開催した。	計118名	4月5日/7月5日/9月6日/ 11月15日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座2. おもちゃのひろば	ファーストミュージアムの取り組みとして、3歳以上の未就学児とその保護者を対象に、良質なおもちゃとその遊び方を紹介。親子で実際にふれあい、遊ぶことを通じて、豊かな時間を共有した。	計53名	4月13日/10月26日/ 2015年1月18日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館・東京 たても探検ツアー	絵本画家いわさきちひろの創作の場であり、生活の場であった自宅跡地に建つ、ちひろ美術館・東京。開館記念日にちなみ、館の内外をめぐりながら、建物にまつわるエピソードや、そこに込められた思いを紹介した。	15名	9月10日	ちひろ美術館・東京
	クヴィエタ・パツオウスカー展関連ワークショップ	パツオウスカーの手法に学び、紙を切ったり折ったり描いたりして、紙の町を作るワークショップを行った。	30名	3月29日	ちひろ美術館・東京
	クヴィエタ・パツオウスカー展関連トークイベント「チェコの文化と子どもの本の魅力」	絵本作家の三浦太郎と、チェコセンター所長の高嶺エヴァが、チェコの文化と子どもの本、そしてパツオウスカーの魅力について語った。	46名	4月20日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ×佐藤卓＝展関連企画 ワークショップ「ちひろの線とコラボレーション」	展示会期中、ちひろの絵のなかから抜き出した線に、自由に線を描きこんで作品にするワークショップを行った。投稿された作品は、額装して展覧会のなかで紹介した。	約2,100名	8月6日～11月3日	ちひろ美術館・東京
	親子で楽しむ文化講座3. 針金造形ワークショップ	ファーストミュージアムの取り組みとして、針金造形作家・橋寛憲を講師に迎え、親子で楽しく造形芸術に親しむことのできる針金ワークショップを開催した。	計64名	8月17日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座1 松本由理子講演会「いわさきちひろが願ったこと」	晩年のちひろと出会い、その遺志を継いでちひろ美術館の設立と運営に取り組んできた松本由理子が、平和と子どもの幸せを願い続けた画家・いわさきちひろの絵と人生を語った。	29名	4月6日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座2 平山知子講演会「ちひろさんとわたし、そして憲法の話」	生前のちひろとゆかりの深い平山知子が、憲法記念日を前に、今の時代にこそ伝えたい、ちひろの生き方の原点と、憲法の大切さについて語った。	42名	4月29日	ちひろ美術館・東京
	ちひろ美術館コレクション ひっくり！絵本水族館 関連トーク	水の生き物の専門家、公益財団法人東京動物園協会葛西臨海水族園教育普及係の天野未知と宮崎寧子、同協会井の頭自然文化園水生生物館の飼育展示担当係の渡辺良平を講師に迎え、自然科学の視点から展示作品を楽しんだ。	50名	5月25日/6月29日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座3 山田真講演会「福島について伝えたいこと」	現役の小児科医である山田真が、3.11以降、福島県内で行なってきた医療活動と、今後放射能の問題とどのように向き合って生きていくべきかを語った。	43名	6月7日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座4 内藤廣講演会「ちひろ美術館との20年」	立地も規模も異なるふたつのちひろ美術館を設計した内藤廣が、具体的なコンセプトや意匠、建材、建設にかかわった人々への思いとともに、これからのちひろ美術館について語った。	50名	11月15日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座5 酒井京子講演会「いわさきちひろと紙芝居」	ちひろとともに仕事をした編集者であり、また日本独自の文化財である紙芝居文化を国内外に発信する酒井京子が、ちひろの仕事と、紙芝居の魅力を語った。	40名	12月6日	ちひろ美術館・東京
	子どもの幸せと平和を考える講座6 田中満智子親業講演会「親子の心が通い合う、魔法のコミュニケーション術」	「子どもの幸せと平和」のために、よい親子関係の在り方について、親業訓練として「子どもの本当の気持ちを聞く」「親の気持ちを話す」「対立を解く」という3本柱で親子のよりよいコミュニケーションを学んだ。	30名	9月18日	ちひろ美術館・東京
	絵本『窓ぎわのトットちゃん』朗読会	「絵本になった！窓ぎわのトットちゃん展」に関連して、abn長野朝日放送アナウンサー・蔵田玲子を招き、トットちゃんの物語を朗読で楽しんだ。	76名	4月20日	安曇野ちひろ美術館
	絵本『窓ぎわのトットちゃん』朗読と対談の集い	音楽やちひろ作品の映像とともに、『窓ぎわのトットちゃん』の朗読を楽しんだ。あわせて、「今の時代に、なぜトットちゃんの世界が愛されつづけているのか」、ちひろが願った「子どものしあわせと平和とは」というテーマで、山田洋次と黒柳徹子が、内藤廣を聞き手に語った。	348名	5月22日	講談社講堂
	絵本作家ホジェル・メロの世界を楽しむブラジルのタベ	ホジェル・メロ展の関連企画として、絵本の中にあられるブラジル文化を知る集いを、ブラジルに滞在した音楽家や長野県のブラジル人学校の方々の協力で開催した。	70名	6月21日	安曇野ちひろ美術館
ちひろの水彩技法ワークショップ	いわさきちひろの水彩技法の特徴のひとつである「にじみ」を使って、実際に作品を制作するワークショップを行った。	7月26日～8月17日 4,142名 他日程計52名 計4,194名	6月8日/7月26日～8月17日/ 11月16日/11月30日	安曇野ちひろ美術館	

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所	
	「ちひろが愛した アンデルセンと宮沢賢治」関連企画 お話の会～宮沢賢治の世界～	宮沢賢治の研究者でもある、絵本美術館&コテージ 森のおうちの館長・酒井倫子を招き、お話の会を開催。歌や朗読、紙芝居など、多彩なプログラムを通して、宮沢賢治の童話や詩を紹介した。	30名	7月12日	安曇野ちひろ美術館	
	「ちひろが愛した アンデルセンと宮沢賢治」関連企画 ギター演奏を楽しむ～宮沢賢治の世界～	ギターの美しい音色を背景に、歌や朗読などを通して、賢治の壮大な世界観を紹介する“夕暮れコンサート”を開催した。	26名	7月13日	安曇野ちひろ美術館	
	「びっくり！絵本動物園」関連企画 動物のこと教えて！飼育員さん	長野県須坂市動物園の飼育員小林正和を講師に迎え、展示作品に描かれた動物たちをより深く理解すべく、動物についての講演会を開催した。	20名	7月27日	安曇野ちひろ美術館	
	ちひろ没後40年記念講演「長男・猛が語るちひろ」	没後40年の命日に、ひとり息子・松本猛による講演を開催。母・いわさきちひろについて語った。	28名	8月8日	安曇野ちひろ美術館	
	聖コージズキンの誘惑展開連ワークショップ ズキン DE パレード ～イカス服とイカス王冠をつくらうぜい～	絵本画家・スズキコージの指導で、古着やダンボールを使って、世界にひとつしかないオリジナルの衣装(服・王冠)をつくり、音楽に合わせてパレードを行うワークショップを、松川村公民館との共催で行った。	20名	9月20日	松川村 すずの音ホール	
	絵本体験ワークショップ トットちゃんの電車がやってくる！	ちひろの絵で愛される『窓ぎわのトットちゃん』の電車の教室が、2016年夏、安曇野ちひろ公園「トットちゃんの広場」に再現される。その電車車輛の輸送にあわせて、『窓ぎわのトットちゃん』に描かれたエピソードを追体験する、電車の到着を迎えるワークショップを開催した。	64名	10月11日～12日	安曇野ちひろ美術館	
	来館団体への各種教育プログラム	団体鑑賞に際し、希望の団体には、スライドトークやギャラリートーク、水彩技法WS、読み聞かせなどの教育プログラムを行なった。また、聴覚障害の方の団体や在宅療養中の子どもとその家族の団体などにも、プログラムを工夫しながら対応を行なった。	5団体110名	6月6日/6月29日/7月4日/ 8月30日/9月2日	安曇野ちひろ美術館	
学校との提携活動	地元中学校との提携活動ー中学生ボランティア	松川中学校と連携し、夏休み期間中、中学生ボランティアをインストラクターとして育成し、来館者を対象にした、当館での水彩技法体験ワークショップ、展示解説、絵本の読み聞かせ等の活動を行なった。	ボランティア中学生 207名 参加者計4,386名	6月11日～8月17日	安曇野ちひろ美術館	
	出前授業	いわさきちひろやちひろの技法について、学校等に出向いて出前授業を企画、実施した。	4校と3団体	4月18日 6月12～13・18日 6月17日 7月3～4日 10月30日・11月6日 2月18日・3月5日 3月13日	練馬区立南田中図書館 杉並区立三谷小学校 開進第一小学校 石神井小学校 西東京市立芝久保公民館 北新宿第二地域交流センター 中野区立上鷺宮小学校	
			2校と3団体	5月16日 6月14日・22日 7月5日 11月26日 12月3日	松川小学校 日義中学校 北安曇保育士会 塩尻市 長野県こども病院	
	スクールミュージアム	希望校を対象に、展覧会の作り方を指導、複製画等の貸し出しを行い、生徒の力で展覧会が開催できるよう生徒キュレーターの育成を行った。	3校	9月26日～10月4日	日義中学校/木祖中学校/ 木祖小学校	
	教員向け内見会・内見週間の開催		教員を対象とする内見会・内見週間を開催、博学連携の活動を行った。	4回、計46名	5月26日/8月18～24日/ 11月10日/3月24～31日	ちひろ美術館・東京
				2回、計60名	8月1日～10日、11月15日～24日	安曇野ちひろ美術館
	職場体験実習の受入れ		近隣中学校からの職場体験実習を受入れ、美術館業務を体験してもらい、博学連携の活動とした。(東京館:練馬区立石神井南中学校2名、都立深沢高校他、安曇野館:KTC中央高等学院3名、松川村立松川中学校3名、大町市立仁科台中学校1名)	8校、14名	6月26～27日/7月10～11日/ 8月23～24日/9月25～26日/ 11月6～7日/11月19～21日/ 1月21～23日	ちひろ美術館・東京
				3校 7名	7月31日/9月11日/9月3～4日	安曇野ちひろ美術館
学芸員実習、インターンシップ生の受入		学芸員実習希望者の受入(安曇野館:大東文化大学、松本大学)と、武蔵野美術大学からのインターンシップの受入(東京館)を行なった。	4名	通年で40日間	ちひろ美術館・東京	
			2名	9月15日～22日	安曇野ちひろ美術館	

エ 絵本等に関する普及活動

絵本等の公開・閲覧	両館での絵本図書室・絵本カフェによる絵本の公開・閲覧	長きに渡って愛され続ける絵本とともに、新刊等幅広い国内外の絵本を、絵本の専門美術館としての視点で選書し、芸術性に優れた魅力的な絵本を配架し、両館の絵本図書室・絵本の部屋、絵本カフェ等での閲覧に供した。また、絵本図書室や絵本の部屋でのコーナーや、HPを通じて、各会議ごとにテーマブックを定め、魅力的な絵本の紹介をした。		通年。 東京館 ・開架図書:1,919冊 ・閉架図書:2,189冊 安曇野館 ・開架図書:2,950冊 ・閉架図書:25,692冊	両館
絵本等の紹介活動	コレクション作家・企画展作家・その他の世界の絵本作家の絵本等の紹介、頒布、レファレンス、読み聞かせ指導、読書指導	当館の視点で選書した国内外の絵本を、絵本図書室、HP等で紹介、普及、頒布するほか、どのような絵本を選べばよいのか、どのように読めばよいのか等々、来館者をはじめ、幅広い求めに応じて、適宜、選書や読み聞かせ等についてアドバイスを行い、日々の暮らしの中で身近に絵本が楽しめるよう支援した。		通年	両館
読み聞かせ会	おはなしの会(絵本の読み聞かせ)、絵本の広場等の開催	絵本の理解を深め、展示鑑賞をより充実したものとするため、両館それぞれで、定期的に絵本の読み聞かせ会を開催した。また同様に、学校・保育園等からの団体鑑賞に際して、読み聞かせを行った。	22回(延べ322名)	毎月第2、4土曜日 他	ちひろ美術館・東京
			34回(内団体18回) 延べ945名	毎月第2、4土曜日 他	安曇野ちひろ美術館

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所
地域・団体との提携による複製画展	各地の自治体、地域、団体との提携による、複製画展の開催	各地の自治体、地域、団体等の求めに応じて、複製画展や関連の講演会を開催するとともに、絵本に親しむ機会を設け、読み聞かせ会等を実施した。		随時	両館
		「感じる、気づく、そして未来を考える ―表現者が問いかけるもの―戦後70年を記念し、いのちと平和について若い人たちと共に考えるというテーマで、ちひろ作品の上映と作品のイメージから作曲された音楽とのコラボレーション、および講演会と複製画展を、JBBYと共催した。	376名	2015年1月15日	津田ホール
平和のパネル展	平和のパネルを希望する施設・団体・学校等で掲示	ちひろの平和への願いを伝えるために、平和の絵本『戦火のなかの子どもたち』『わたしがちいさかったときに』の複製パネルを、希望する施設・団体・学校に貸し出した。	4会場	3月7日～3月29日 7月19日～8月15日 7月23日～7月28日 8月4日～8月11日	厚木市役所 川西市役所 福島市役所 ピースフェスタ明石ギャラリー会場
病院との提携活動	季節ごとの病院院内展示・ワークショップ	来館が難しい病院患者やその家族を対象に、病院内での複製画展を行うとともに、絵本に親しむ機会を設け、各病院からの求めに応じて、院内での読み聞かせ会、水彩技法体験ワークショップ等を実施した。		通年	東京女子医大病院、聖路加国際病院、長野県立こども病院、埼玉医科大学総合周産期母子医療センター

オ 絵本等に関する国際交流

海外における展覧会・講演会、ワークショップ	シンガポールにおける AFCC アジア子どもコンテンツフェスティバルへの参加・講演	毎年シンガポールで開催される、アジア子どもコンテンツフェスティバルにおいて、竹迫祐子が講演「絵本美術館の役割ーちひろ美術館の活動を中心に」を、松方路子が「日本の米と絵本」をテーマに発表を行い、ちひろ美術館を紹介するとともにアジアや欧米の子どもの文化の関係者との交流を行った。		5月30日～6月4日	シンガポール国立図書館
	タイにおける ちひろと日本の絵本展と講演会、ギャラリートーク	タイで初めてのビエゾグラフィ作品によるいわさきちひろ展と「いわさきちひろと日本の絵本の歴史ー絵因果経から現代の絵本まで」展を開催し、竹迫祐子が「日本の絵本の歩み」について講演、松方路子がギャラリートークを行った。	約2,500名	10月5日～11月6日	バンコクアートアンドカルチャーセンター-BACC(タイ)
	インドにおけるBOOKAROOでのいわさきちひろ水彩技法のワークショップ	毎年インド国内各所で開催されている子どもの本のフェスティバルのデリーでの大会に参加し、インドの子どもたちを対象に、いわさきちひろの作品を紹介するとともにその水彩技法体験のワークショップを行った。	約60名	11月29日	インド・デリー
	ドイツにおける、巡回ちひろ展準備	ドイツ国内でちひろのビエゾグラフィ作品展を巡回するための展示構成の準備を進めた。		2014年秋	ドイツ
海外からの研修受入と交流	韓国の絵本美術館準備委員の視察受入とワークショップ	韓国で絵本美術館建設を構想、計画している団体のメンバーの当館での視察、研修を受け入れ、館の活動や理念を伝えるとともに、合同研修会を持ち、絵本美術館のあり方や役割についての討議・交流を行った。	16名	11月22日～23日	両館
海外の関係機関とのネットワーク	絵本美術館ネットワーク(米・英・豪・日)の設立のための協議	エリック・カール美術館(米)、セブン・ストーリーズ(英)、ドロムキーン児童図書センター(豪)とともに、絵本文化のさらなる発展をめざして、絵本専門機関の国際ネットワーク作りのために、各館との情報共有を進め、交流を深めた。		随時	両館
	絵本と子どもの本の専門機関(IBBY、JBBY、絵本学会)等との提携活動	絵本と子どもの本の国際的な専門機関であるIBBY、並びに、国内の専門機関であるJBBY、絵本学会等との交流を深め、適時、提携活動を行った。		随時	両館
	海外の図書館などへの、ちひろの絵本の寄贈	海外の国際交流基金などの日本文化を発信する図書館などに、ちひろの絵本を寄贈し、普及に努めた。	計183点	随時	国際交流基金タイ日本文化センター/同インド日本文化センター

カ 絵本等に関する支援活動

絵本の専門家への支援活動	絵本の研究者、絵本作家等への研究・創作支援	絵本の研究を目指す学生、専門家、また、絵本作家等の絵本の専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団コレクションの絵本原画、絵本、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
	絵本美術館に関する研究者、専門家等への研究支援	絵本美術館について学ぶ学生や専門家を対象に、求めに応じて、それぞれの研究テーマを吟味した上で、当財団の絵本専門美術館の設置・運営に関する経験と実績、資料を活かした研究や活動を支援した。		随時	両館
展覧会鑑賞者・絵本受容者への支援活動	鑑賞者のより深い作品・作家理解のための解説、ガイドブックの作成、並びに画集・複製画の紹介、頒布	鑑賞者が作品や作家に興味を持ち、理解を深めるための手助けとして、解説やガイドブック、ワークシート等を作成、配布するとともに、画集や複製画の紹介、頒布等を行い、それらを通して鑑賞を助けた。		随時	両館
	館内での絵本レファレンス、絵本紹介、読み聞かせ指導等	絵本の問い合わせ等に随時対応する他、来館者を対象に絵本の紹介や、読み聞かせ等について指導を行った。		随時	両館
	地域の図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	地域の保育園、幼稚園、学校、図書館等の社会教育施設、地元保健センター等の社会福祉施設等と協力し、求めに応じて、絵本の選び方や読み聞かせの方法等についてアドバイスをを行い、地域住民が生活の中で日常的に絵本が楽しめるよう支援した。		随時	両館
地域の子育て支援団体との提携活動	地域の子育て支援団体等と提携した絵本の紹介活動と読み聞かせ指導等	松川村保健センターと協力し、絵本の出会い事業として、同村の新生児とそのお母さんを対象にファーストブックを贈呈し、絵本の選び方や読み聞かせ等についてアドバイスをを行った。	延べ78名	年6回	安曇野ちひろ美術館/松川村図書館/松川村地域保健センター

その他

被災地支援	東日本大震災等、災害支援の取り組み	東日本大震災の被災証明を提示した来館者は全員無料とした。		通年	両館
		館内の来館者に対し、被災地支援の義援金を呼び掛けた。		総額:163,889円 東日本大震災義援金27,352円 長野県木曾郡南木曾町土砂災害義援金60,720円 広島県大雨災害義援金75,817円	安曇野ちひろ美術館
無料入館日	無料入館日の取り組み	美術館が社会に果たす役割についてより広範の人々にアピールすると同時に、実際に来館して親しんでもらうため、入館無料の日を設けた。	3回、計1,708名	12月14日 2015年3月8日(松川村民対象) 3月22日(安曇野市民対象)	ちひろ美術館・東京 安曇野ちひろ美術館
寄付	支援会員(寄付会員)制度の取り組み	当財団ならびにちひろ美術館(東京・安曇野)の理念を積極的に伝え、世界的にも散逸しやすい絵本原画の収集・保存・研究・展示公開、並びに、絵本の普及や国内外での絵本文化支援活動を支えていただく寄付(1口3000円)を呼びかけた。	会員数 新規65・ 継続203 計268名	総額1,478,000円	両館

収益事業

事業	事業内容	実施内容	参加者数 (入館者数)	備考(実施日、回数、その他 実績)	実施場所
その他この法人の目的 を達成するために必要 な活動	ミュージアムショップの運営	来館者の展覧会鑑賞がより豊かなものとなるよう、ミュージアムショップの運営を行った。		通年	両館

公益財団法人いわさきちひろ記念事業団 2014(平成26)年度事業報告書 入館者一覧

1.絵本美術館の設置運営

2014年度の入館者数は、ちひろ美術館・東京 46,966人、安曇野ちひろ美術館141,819人、両館合計で188,785人となった

■ちひろ美術館・東京

2014年4月～2015年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数						全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	招待者その他無料	小計		
4	27	3,348	3,348	56	171	324	14	305	870	4,218	156
5	27	4,574	4,574	65	233	312	15	447	1,072	5,646	209
6	25	2,493	2,493	45	170	234	11	271	731	3,224	129
7	27	3,131	3,131	295	313	318	9	212	1,147	4,278	158
8	28	4,211	4,211	883	561	475	17	425	2,361	6,572	235
9	25	2,686	2,686	23	126	324	10	302	785	3,471	139
10	27	3,226	3,226	34	113	408	9	427	991	4,217	156
11	26	3,118	3,118	68	146	287	17	445	963	4,081	157
12	23	1,579	1,579	63	248	337	10	1,151	1,809	3,388	147
1	26	3,554	3,554	89	119	265	25	295	793	4,347	167
3	26	2,493	2,493	89	163	400	18	361	1,031	3,524	136
合計	287	34,413	34,413	1,710	2,363	3,684	155	4,641	12,553	46,966	164
構成比		73.3%	73.3%	3.6%	5.0%	7.8%	0.3%	9.9%	26.7%	100.0%	
昨年合計		34,732	34,732	2,135	2,294	3,414	148	5,343	13,334	48,066	175
前年度比		99.1%	99.1%	80.1%	103.0%	107.9%	104.7%	86.9%	94.1%	97.7%	93.5%

* 2014年4月～2015年3月の入館者総数は46,966名(1日の平均入館者数164名)。2013年度に比べ1,100名の減少(昨年度比97.7%)。

* 入館者の内訳は有料入館者数34,413名(全体の73.3%)、無料入館者数12,553名(全体の26.7%)。

* 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料含む):中高生:小学生:幼児が、83.6%:3.6%:5.0%:7.8%。

* 例年通り、敬老の日(9月15日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。

* 12月14日に無料感謝デーを実施し、全入館者1,193名の入館料を無料とした(昨年は1,580名)。

* 年間パスポートは、2012年度より500円値上げして2500円で販売。販売数は268枚・670,000円(昨年は261枚・652,500円・103%)、リピーターを含む延べ利用者数は1,203名(昨年は1,116名・108%)だった。

* 「ぐるっとパス」による入館者数は2,711名(昨年2,183名・124%)で、2010年以降続いていた減少傾向から6年ぶりに増加。利用率自体は、「有料入館者」の7%(昨年は6%)、入館者全体の5.7%(昨年は4.5%)となった。

* 2008年に毎日新聞社と連携して取り組み始めた新聞社招待券。年々、朝日新聞社、読売新聞社へも取り組みを広げ、2011年には招待数が11,118名と年間の入館者数の約2割を占めるまでとなったが、それをピークに減少しはじめ、2014年度は6,146名(昨年は6,599名)となった。

■安曇野ちひろ美術館

2014年4月～2015年3月 入館者数内訳(月別)

月	開館日数	有料入館者数		無料入館者数							全入館者数	1日平均入館者数
		大人	小計	中高生	小学生	幼児	支援会員	その他無料	松川村招待者	小計		
4	28	6,659	6,659	86	177	300	6	614	241	1,424	8,083	289
5	28	16,753	16,753	335	625	598	5	984	326	2,873	19,626	701
6	28	10,579	10,579	113	159	279	6	855	161	1,573	12,152	434
7	28	12,219	12,219	654	667	637	4	710	194	2,866	15,085	539
8	31	28,115	28,115	1,843	3,035	2,000	7	1,361	436	8,682	36,797	1,187
9	26	14,116	14,116	108	377	562	9	1,181	286	2,523	16,639	640
10	29	14,104	14,104	94	255	361	4	782	190	1,686	15,790	544
11	28	10,459	10,459	104	391	563	8	745	255	2,066	12,525	447
12	1	44	44	0	0	0	0	1	0	1	45	45
3	29	3,506	3,506	146	197	284	5	741	198	1,571	5,077	175
合計	256	116,554	116,554	3,483	5,883	5,584	54	7,974	2,287	25,265	141,819	554
構成比		82.2%	82.2%	2.5%	4.1%	3.9%	0.0%	5.6%	1.6%	17.8%	100.0%	
昨年合計		121,573	121,573	3,330	6,084	5,814	30	9,816	1,892	26,966	148,539	583
前年度比		95.9%	95.9%	104.6%	96.7%	96.0%	180.0%	81.2%	120.9%	93.7%	95.5%	95.0%

* 2014年4月～2015年3月の入館者総数141,819人(1日平均入館者数は554人)。2013年度に比べ、6,720人の減少。(昨年度比95%) 安曇野館の入館者が15万人を下回るの、昨年に引き続き2回目である。

4月～9月の入館者合計は108,382人で昨年度比96.4%、10月～3月の入館者合計は33,437人で昨年度比92.3%となり、下半期の落ち込みが目立った。

* 消費税の増税と高速道路のETC割引が縮小、廃止された4月(昨年度比77%)、木曾の土石流発生(7/9)により松本～名古屋間のJRが運休(7/9～8/5)となった7月(昨年度比83%)、木曾御嶽山噴火(9/27)後の10月(昨年度比90%)、雨が多く寒さが厳しかったうえに、北陸新幹線の延伸により金沢に話題が集中した3月(昨年度比80%)は、落ち込みが厳しく、2014年度は社会情勢や自然災害の影響を受けた1年となった。その他の月:5月(昨年度比109%)、6月(昨年度比106%)、8月(昨年度比97%)、9月(昨年度比101%)、11月(昨年度比102%)。()内は入館者の昨年度比

* 入館者の内訳は、有料入館者数116,554人(全体の82.2% / 昨年は81.8%で昨年度比95.9%)、無料入館者数25,265人(17.8% / 昨年度は18.2%で昨年度比93.7%)となった。

* 入館者全体における割合は、大人(支援会員、その他無料、松川村含む):中高生:小学生:幼児が、89.5%:2.5%:4.1%:3.9%。

* 例年通り、敬老の日(9月15日)は65歳以上の方の入館料を無料とした。12月1日は日本旅行のために特別開館し、45人が入館。

* 2015年3月8日に松川村民感謝デーを実施し、松川村民67名が来館(入館料無料)。3月22日に安曇野市民入館無料デーを実施、安曇野市民448名が来館(入館料無料)。

* 旅行会社等のクーポン利用者数は12,401人。有料入館者全体に対してのクーポン利用率は10.6%。(昨年は9.2%)